

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

ロウきゅーぶ！ 妹観察日記

### 【作者名】

ドン・タコス

### 【あらすじ】

ロウきゅーぶ！の二次創作

湊智花の兄、湊恭平が妹になつかれたいという理由でバスケットを始めました話です。

僕はバスケットやったことないし知識があるわけでもないので原作を見ながらその場しのぎで書いていきます

話の進行は原作基準です。

小説家になろうに投稿していた二次創作です

加筆修正を加えたものです

内容はかわりません

## 昴と変態

この俺湊恭平は七芝高校に通う高校1年生である。

べつに俺のステータスなんざどうでもいいと思うが一応いっておう。

俺には『妹』がいる。

それはそれは可愛い妹で思わず抱きしめちゃいたいくらいの可愛さだ

その妹なんだが小さい時からバスケットとかいうスポーツをやっているんだ。

それはもう熱心に取り組んでいる

その妹がやってるバスケット、親父曰く『不良のスポーツ』なんだそう

俺は別に不良のスポーツだなんて思ったりしてないが俺の通ってる高校のバスケット部のせいで変な印象を持ちっちゃった。

バスケットって変態がやるスポーツなんだなあって。

なんでそんな印象を抱いてしまったかと言うとうちの高校の男子バスケット部の部長さんがバスケットの顧問の娘さんと恋仲になってしまっ

て休部になってしまったからだ、1年間だけ

1年ってというのは長いんだか短いんだか良くわからないが俺もスポーツをする身として言わせてもらえばものすごい体が鈍るであろう期間だ……と思う

別に俺はバスケット部のメンバーと特別親しいわけでもなかったから「へえ大変なロリコンさんだねえ」で反応を終わらせた。

俺のクラスにも長谷川とかいうバスケット部志望だった男子がいるんだが……

なんせ入学して間もないからな。そいつと会話なんてしたことない

しかもその長谷川はまともな友達ができる前にロリコン騒ぎがおきたからな

みんな長谷川をまるで腫れ物に触るかのような態度だった。

しかも長谷川はスポーツ選抜で高校に入ってきたのだからなおさら話しかけづらい位置にいる。

ちなみに余談だが俺も陸上で推薦入学したので長谷川とは同じクラスだ

今は四時限目がおわって昼休みだ。あいつはいつも一人で飯を食ってる。

たまに眼鏡の男と飯を食ってるが。

そんな長谷川に俺はなぜか声をかけたくなくなった……だって便所飯とか悲惨すぎるじゃん

「は、長谷川」

「あ？」

えー……

おーけいおちつけ俺。なんか不良っぽいけど大丈夫。俺ならいける。

「あーなんだ一緒に昼飯でもどつだ？」

「え？」

「え？って聞こえなかったか？一緒に飯食わんか？って」

「え、いやでも……悪いし……」

なにがだ……こいつ遠慮深い性格だな？きっとそうだ。そう読んだぞ俺は

「いいからいいから！中庭いこつぜ」

「お、おつ」

長谷川は突然の飯の誘いに戸惑ってる様子だった

だがそんなこと俺には関係ない、ずんずん中庭へ進んでいくその後をちゃんと長谷川は追いかけてきていた

ちなみにまた余談だが俺達が所属する1年10組は面倒な事に様々な場所へのアクセスの悪い旧校舎の三階に位置している。

進行方向の反対側は普通科のクラスだ。まあ俺には関係のない話  
しだが……

「いよいよ！ロリコン一味！」

そんな事を考えていたら変な眼鏡が長谷川に声をかけていた

「……………だれ？」

おそらく長谷川の知り合いだろうから長谷川に聞いてみる  
バキッ！

「へんぶっ……」

いきなり殴ったぞっ！っ。

「こいつは一成頭の良いバカだ」

「ああ、なるほどね」

長谷川の説明にうなずいていると一成とか言う奴が起き上がった  
きた

「ちょー殴っておいてその紹介はどつなの？もっとちゃんと紹介しと  
けよー」

あ、鼻血でてるぞあいつ

「だまれ今から飯なんだ、じゃあな」

長谷川、おまえすげえ冷静に対処してんな

「ん？へえ友達できたんだあんな事があつたのにまだお前と付きあっ  
てくれる物好きがいたのか」

あの事とはバスケット部部長のロリコン騒ぎの事であろう。

「ん………まだそんなに話してないから友達とはよべないけどな」

「え？」

「え？」

長谷川の発言に俺は思わずアホみたいな声をだす。  
すると向こうも同じ声で返してきた

「え、うそ友達じゃないの？」

「え、ああそう思ってた方がいいんだちょっと不安だっただけ」

「なんだよ〜結構心にきたぞお前の言葉」

「ごめんごめん。じゃあ一成俺達はこれで」

「ええ!?ちょ、までよ!そっちのすこしでかい人を紹介してよ!」

「ん？ああ紹介がおくれたなこちら『湊恭平』俺の高校初の友達だ」  
「よろしく……えーとなんて呼べばいい？」  
「ああ、一成でいいよじゃあ俺は学食だから」

そついつて一成は学食へ走っていった

「あ」

「どうした長谷川」

「・・・俺も学食だった」

「多分もうパン売り切れてるな」

「……」

長谷川には俺の弁当を分けてやった